

研究活動報告

Project 1

黒澤 満

プロジェクト1の研究課題は「国際共生の研究」であり、この1年はさまざまな研究報告を中心に活動を実施した。まず「核拡散を防止するための効果的の保障措置：伝統的国際保障措置とそれを補完するためのシステムに関する提案」は、樋川和子博士後期課程学生によるもので、核拡散を防ぐという目的にとって、効果的な保障措置システムとは何かが課題であり、核兵器が存在する所与の状況下にあつて、如何にして更なる拡散を防ぐかを論じるものである。国際原子力機関による保障措置は、第2次世界大戦後、国際的な核拡散を防ぐための柱として機能してきたが、このシステムは、普遍的システムであるが故に個別の拡散事案に充分対応できずにきた。地域的保障措置のような相互的保障措置システムを導入することで、伝統的国際保障措置システムを補完し、真に効果的な国際的保障措置システムを構築することができる、と論じるものである。

次に「イギリスの平和的生存権と軍事法制および日本への教訓」に関する幡新大実教授の報告の内容は、イギリスは権利章典6条が議会承認なき軍の保持を禁止し、議会が立法で1年に限り違憲性を阻却して軍を保持する方式で、文民統制を担保している。同7条は法律の範囲内で個人の武装権を保障し、合衆国憲法のように武装権を無制限に保障して銃社会に陥る危険を排している。元々①王が軍を用いて王政を敷くことを防ぐ（権利請願）、②軍が国の基本制度を破壊して無法状態に陥るのを防ぐ（王政復古）、③名誉革命で外国君主を招くに当り外国の事情でその戦争に国民が動員さ

れることを防ぐという、軍の乱用の経験と予測される危険に対処した規定である。以上は平和的生存権の遺伝子であり、NATO軍地位協定や軍法会議の刑事訴訟化はその現代的進化の表れだと見る。王と個人それぞれの武装権が権利章典（人権章典）の規定で議会統制に服する構造も日本が改憲するなら注目すべきである。

第3に「グローバル時代における多文化教育を問う」という馬淵仁教授の報告の内容は、加速と多様化の度を加えるグローバル化のもとで、従来から多文化教育と呼ばれてきた領域や研究にも変化がみられるようになってきた。1970年代にカナダとオーストラリアで発展した多文化教育は、その後アメリカ合衆国や欧州の一部でも積極的に取り上げられるようになり、人種や民族間の平等や公正を推進する大きな力となってきた。ただしそこには、留意すべき大切な点もある。まず、多文化という概念は主に英語圏先進諸国で用いられ、また同じ英語圏でも、カナダ、豪州、米国、英国ではかなり異なった展開がみられること、第二に、欧州では多文化より異文化（インターカルチュラル）という概念の方が用いられており、最近では統合が重視される中、多文化概念には疑問も提出されていること、最後に、日本では多文化という概念は広まらず（日本人以外の住民＝移民は認められていない）、多文化共生という曖昧な概念が特定の時期に広まったことなどである。

その他の研究報告は大学院博士前期課程学生の修士論文に関するものである。

平和・人権研究会 (Project 1)

- 第55回 日時：2016年11月30日
報告者：樋川和子（大阪女学院大学大学院 博士後期課程）
タイトル：“Effective safeguards to prevent nuclear proliferation - proposal to complement the traditional international safeguards system”
- 第56回 日時：2016年12月14日
報告者：Debby Elfrida Panjaitan（大阪女学院大学大学院 博士前期課程）
タイトル：“Student cheating in national examinations: A case of Indonesia”
報告者：Hnin Oo Kyaw（大阪女学院大学大学院 博士前期課程）
タイトル：“Comparing English Learning of University Students in Japan and Myanmar”
- 第57回 日時：2016年12月21日
報告者：Mallawaarachchi, Chamila Geethanjalee（大阪女学院大学大学院 博士前期課程）
タイトル：“Evaluating the role of programme makers in building peace and multicultural cohesion in Sri Lanka”
報告者：中原祐子（大阪女学院大学大学院 博士前期課程）
タイトル：“Restudying English”
- 第58回 日時：2017年1月25日
報告者：幡新大実（大阪女学院大学教授）
タイトル：“イギリスの平和的生存権と軍事法制および日本への教訓”
- 第59回 日時：2017年5月31日
報告者：馬淵仁（大阪女学院大学教授）
タイトル：“グローバル時代における多文化教育を問う－豪・加・米・英の現況から示唆されるもの”
- 第60回 日時：2017年7月26日
報告者：Shi Yun（大阪女学院大学大学院 博士前期課程）
タイトル：“Multicultural Education in Singapore and Japan”

研究会開催報告

研究活動報告

Project 2

Brian D. Teaman

RIICC Project 2, Research on Language Learning (RoLL), has been continuing its emphasis on the use of tablet computers and other technologies in the language learning classroom. Consequently, RIICC members have been working closely with other key faculty to play important roles in writing and revising the first-year English eBooks. This year we also sponsored two events.

First, on January 16, 2017, RIICC Project 2 welcomed Timothy J. Vance from the National Institute for Japanese Language and Linguistics to OJU for two special lectures. A leading scholar on

Japanese phonology, Prof. Vance has authored several books introducing important aspects of Japanese linguistics to Japanese language learners and other scholars. The first lecture was entitled “Compound words in English and Japanese.” The second was entitled “Rendaku (sequential voicing) in Japanese compounds.” Both were followed by lively discussions.

Second, on May 27, 2017, Project 2 collaborated with the Osaka Chapter of The Japan Association for Language Teaching (JALT) to co-sponsor its annual Back to School Conference. This was our second